



令和 5 年 10 月 10 日

< Press Release >

**【10/16(月)10:00より記者会見を実施します】**  
**県内大学が連携してグローバル人材を育成**  
**～ 大学の世界展開力強化事業に採択されました ～**

宮崎大学(鮫島浩学長)、南九州大学(中瀬昌之学長)、宮崎国際大学・宮崎学園短期大学(村上昇学長)の4つの県内高等教育機関と連携して申請した『地域と世界を結ぶ「知」の循環:日・米・台・韓の地域からGXへ挑むグローバル人材育成事業』が令和5年度大学の世界展開力強化事業に採択されました。

文部科学省では、平成 23 年度より、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を支援する「大学の世界展開力強化事業」を実施しています。令和 5 年度は、「米国等との大学間交流形成支援」として、日本と米国等の大学との間で、質の保証を伴った交流プログラムを実施する事業に対して支援を行うこととしており、今回申請した事業は、本学がこれまで構築してきた国際的なネットワークを地域に還元し、県内4つの機関が連携してグローバル人材の育成に取り組む姿勢が高く評価され、採択に至ったものと考えられます。

今回の事業の特徴としては、リベラルアーツを中心に基礎教育で培われる科学的思考力、多面的思考力、俯瞰力等を基盤に、COIL型教育、集中オンライン学習、TBL(Team Based Learning)で構成し、それらを組み合わせた3つのステップ(STEP 1:COIL科目とJV-Campusを通じてGXに関わる地域課題(環境や地域ビジネス等)の基礎を学習、STEP 2:宮崎を題材とした地域課題の学習と課題発見力を身に着ける、STEP 3:地域課題の解決に必要なフィールドワークを海外相手大学で行う。)で教育の実質化と効率化を図ります。加えて、学生の留学意識の敷居を下げ疑似的に体験できるように、オンラインコースでの履修設定や仮想空間技術(メタバース)を用いた Language Exchange Program を通じてコミュニケーション能力と異文化理解力の向上を図ることとしており、宮崎大学が中心となり、ペンシルベニア州立大学インディアナ大学(米国)、エバークグリーン州立大学(米国)、大葉大学(台湾)、台南応用科技大学(台湾)、順天大学(韓国)の 5機関と連携し留学生の受け入れ、派遣を行う計画で、文部科学省から5年間で約1億3,600万円の支援を受けることになっています。

つきましては、別紙1(裏面)のとおり、報道関係機関の皆様向けに記者会見を実施し、事業内容等の詳細を御説明させていただきますので、御出席いただければ幸いです。

【発信元】

宮崎大学 総務広報課 広報係(後田)  
 TEL:0985-58-7114  
 E-mail:kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp

【事業に関する問合せ】

国際連携センター(村上・鈴木)  
 TEL:0985-58-2744・7781  
 E-mail:gso@of.miyazaki-u.ac.jp

## 【記者会見詳細】

○日時:令和5年10月16日(月) 午前10時～

○場所:宮崎大学附属図書館3階hidamari(木花キャンパス)

○スケジュール:

10:00 挨拶 宮崎大学長 鮫島 浩

10:10 事業説明 宮崎大学副学長(国際連携担当) 村上 啓介

10:30 各大学代表挨拶(南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学)

10:40 質疑応答

11:00 終了

## 【事業期間】

5年間:令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)

## 【予算規模(5年間)】

総事業費:約1億8千万円(補助額:約1億3,600万円、大学負担額:約4,400万円)

## 【要請する人材像】

リベラルアーツを中心とした基礎教育で身に着けた科学的思考力や多面的思考力等を基盤に、①異文化理解力、②多文化共生力、③課題発見力、④課題解決力、⑤課題発信力を備えたGXに挑むグローバル人材を育成する。

## 【本事業で計画している交流学生数(オンライン含む)】

2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
129名	129名	200名	200名	258名	258名	316名	316名	384名	384名

## 【その他】

事業概要は別紙2のとおりとなります。学習成果が上がった学生に対してデジタルバッジの付与や本コースを修了した学生には修了証(宮崎大学と在福岡米国領事館連名)を発行し、全国平均でも少なかった本県の留学生数の増員を目指します。

## 【令和5年度 大学の世界展開力強化事業詳細・採択機関一覧等】

文部科学省ホームページより確認できます。(右記QRコードより参照可能→→→)



背景・趣意

- ◆ **国際競争力の土台となる研究力が世界トップ**にあり、かつ民主主義や人権、法の支配といった基本的な価値観を共有し、**国際的に最も重要なパートナーである米国**との間で、大学・学生間交流を促進し、**戦略的な国際ネットワークを草の根から強化することは、経済安全保障の観点からも極めて重要**。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症により停滞した留学を、**オンラインも活用しつつ、質保証を伴った教育プログラムとして回復・伸長させる必要**があり、**国際オンライン教育を世界的に先導する米国と教育プログラムを協働して構築**することは極めて有用。
- ◆ 我が国大学のイノベーション・科学技術分野の先進性を、世界トップ水準の大学との研究・教育交流の中で更に伸長しつつ、**米国中心に世界各国で取組が進むSTEAM教育やDX、GX等の分野の交流に取り組み、真のグローバル人材を育成する新たな国際教育環境モデルを構築**することも重要。

## 事業概要（事業期間：2023～2027年の最大5年間）

- **米国を軸とした大学間交流を推進し、日米合同で事業を展開**（カナダ等、戦略的な第3国の参画も可）。
- **COIL/VE※等、質の伴ったオンライン教育手法を活用した最先端の国際教育交流基盤を構築し、実渡航の価値をより高めつつ、バランスの取れた双方向型の5万人規模の交流を目指す。**

※オンラインを活用した双方向の国際協働学習方式やバーチャル空間で米国学生等と主体的に学び合う大学間交流

- **文理の枠を超えて課題解決に取り組むSTEAM教育やGX、DX等の成長分野に関する事業も推奨。**

### ●事業規模

✓**タイプA（米+a交流型）** ※STEAM教育やDX、GX等分野の交流事業を5割程度

**3,400万円×12件程度 = 40,800万円**

✓**タイプB（交流+拠点形成・プラットフォーム構築型※ 3大学以上が連携）**

**14,200万円×1件 = 14,200万円** ※COIL/VE、JV-Campus活用等、オンラインを全面活用できる新たな国際交流環境整備を担う



## 取組（アウトプット）例

- 米国連携先大学と連携して、**STEAM教育を開発・提供**、または**DX、GXに必要な専門知識を得る教育プログラムを設置**しつつ、COILやバーチャル空間の交流等も含め、**日米学生が協働し、世界的課題解決に向けた戦略立案・計画策定・実践**を行う取組。
- JV-Campus**において、日本語教育や日本文化等の**コンテンツを共有**しつつ、米国連携先大学と**COIL/VE等を活用**し、大学全体で多様な学生交流を行い、実渡航を含め**年間400名規模の交流を行うプログラム**を構築。
- 中長期的な日本への正規留学生増加も見据えた、**JV-Campusを活用したリクルート活動やオンライン科目の入学後の単位認定等の仕組み**を構築。
- 大学と産業界がパートナーシップ**を組み、**国際的な人材育成とリクルート活動等**を目的に、**インターンシッププログラムを企画・実施**。

### アウトカム（成果目標）

- 最先端の国際教育交流基盤の構築し、国際化を進める多数の大学が活用することで多くの日本人学生のマインドセットの変革に寄与。
- 国際通用性あるSTEAM等の教育プログラムによるDX、GX等分野を支える人材育成。

### インパクト（国民・社会への影響）

- 最先端の教育研究に触れることで、世界で活躍するグローバルリーダーを創出
- 日米間の大学交流の推進による強固な日米同盟の維持・発展
- イノベーション・科学技術の進展による経済面・技術面での国際競争力強化

## ○交流プログラムの背景

- 地球規模の気候変動が進むなか、持続可能な地域社会の形成が喫緊の課題
- GXに関わる地域課題の解決に挑戦できる人材の育成は急務



- 課題解決に向けて多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生み出すことを促す学びの必要性
- GXに関わる諸課題を対象に、「知」のグローバルな共有と「知の活力」を生み出す

## ○交流プログラムの主たる目的

地域の課題解決に必要な「知」をグローバルな視点で捉えることができる人材の育成

## ○交流プログラムの特徴

### ○段階的な学習ステップとTeam Based Learning(TBL)の活用

**STEP1** : COIL科目とJV-Campusを通じてGXに関わる地域課題の基礎を学習

**STEP2** : 集中オンラインコースの履修による課題発見力の習得

**STEP3** : オンラインと実渡航を組み合わせたTBLによる課題解決力と発信力の習得

### ○学生が入りやすい環境と交流の拡大（メタバースの活用）

→上記各学習ステップへの導入による学生交流の拡大

→Language Exchange Programによる能力に応じた英語学習

## ○交流プログラムのアウトカム

異文化理解力、多文化共生力、課題発見力、課題解決力、課題発信力を備え、GXに関わる地域課題解決のための「知」を循環させながら持続可能な社会の形成に挑戦できるグローバル人材の育成

## GXに関わる地域課題解決への挑戦 地域課題に関わる『知』の循環

GXに関わる地域課題  
(一次産業を主とする地域課題例)



持続可能な林業と  
地域脱炭素



省エネルギー農業の普及



水産業における  
ブルーカーボン等の普及



畜産廃棄物によるバイオガス



## ○交流プログラムの概要と特徴

○本プログラムにおける大学連携：国内4大学、海外（米・台・韓）5大学

○段階的な学習ステップとTeam Based Learning(TBL)の活用

**STEP 1: COIL科目とJV-Campusを通じてGXに関わる地域課題の基礎を学習**

本プログラムでは、COIL科目を3カテゴリー（入門COIL、拡張COIL、強化COIL）に分けて段階的に科目内容の充実を図り、地域課題の基礎を学ぶ

**STEP 2: 集中オンラインコースの履修による課題発見力の習得**

集中オンラインコースを設定し、交流学生はSTEP 1で学習した内容と課題探求を通じてGXに関わる地域課題を発見する力を身に着ける

**STEP 3: オンラインと実渡航を組み合わせたTBLによる課題解決力と発信力の習得**

派遣先および受入先の学生とチームを組み、STEP 1とSTEP 2で学習したGXに関わる地域課題の解決に必要なフィールドワークを実施。チームで協働して課題解決策を模索し、その成果を社会に発信する

○学生が入りやすい環境と交流の拡大（メタバースの活用）

(1) STEP1~STEP3の学習ステップへの導入による学生交流の拡大

(2) Language Exchange Programでの活用

学生が主体的かつ自分の語学力にあったに英語学習に取り組める環境として、メタバースを活用した3段階のLanguage Exchange Programを実施する。

1) Classroom Language Exchange

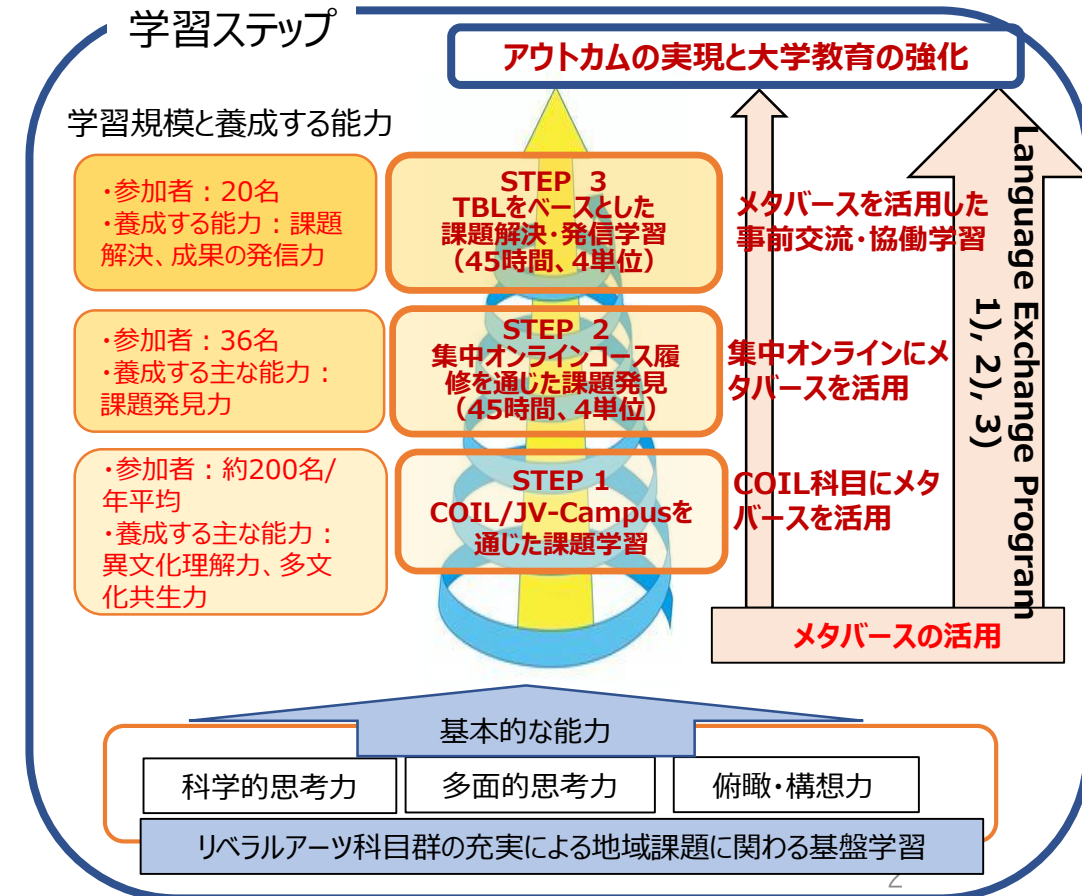
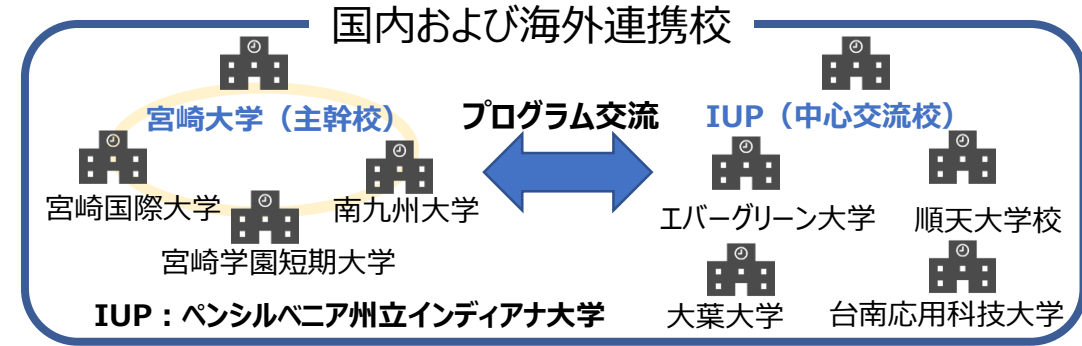
5~6人程度のグループで地域課題に関して英語でのコミュニケーションを促す

2) Student Group Language Exchange

10名程度で自主的に決めた地域課題について英語で議論する場を提供

3) Personal Language Exchange

海外相手大学の学生とペアを組み地域課題について英語で意見交換する



## ○養成する人材像

リベラルアーツを中心とした基礎教育で身に着けた科学的思考力や多面的思考力等を基盤に、**異文化理解力、多文化共生力、課題発見力、課題解決力、課題発信力**を備えたGXに挑むグローバル人材を育成する。

### ○本交流プログラムでゴールとする人材像の具体

**異文化理解力を備えた人材**：科目履修の過程と学生交流を通じて背景や文化が異なる人々の意図や考えを理解できる人材

**多文化共生力を備えた人材**：科目履修の過程と学生交流を通じて背景や文化が異なる人々と協力・協調して共通の目標に取り組める人材

**課題発見力を備えた人材**：課題に関わる基礎学習と課題探求で得られる様々な周辺知識や情報を活用して解決すべき課題を見つけ出せる人材

**課題解決力を備えた人材**：様々な周辺知識や情報を活用し、ステークホルダーとの調整も考慮したうえで、協働作業を通じて解決策が提案できる人材

**成果の発信力を備えた人材**：チームで取り組んだ課題の本質を的確に把握し、その内容を他の人々や組織に効果的に伝えることができる人材

## ○プログラム実施を支援する国内外連携組織

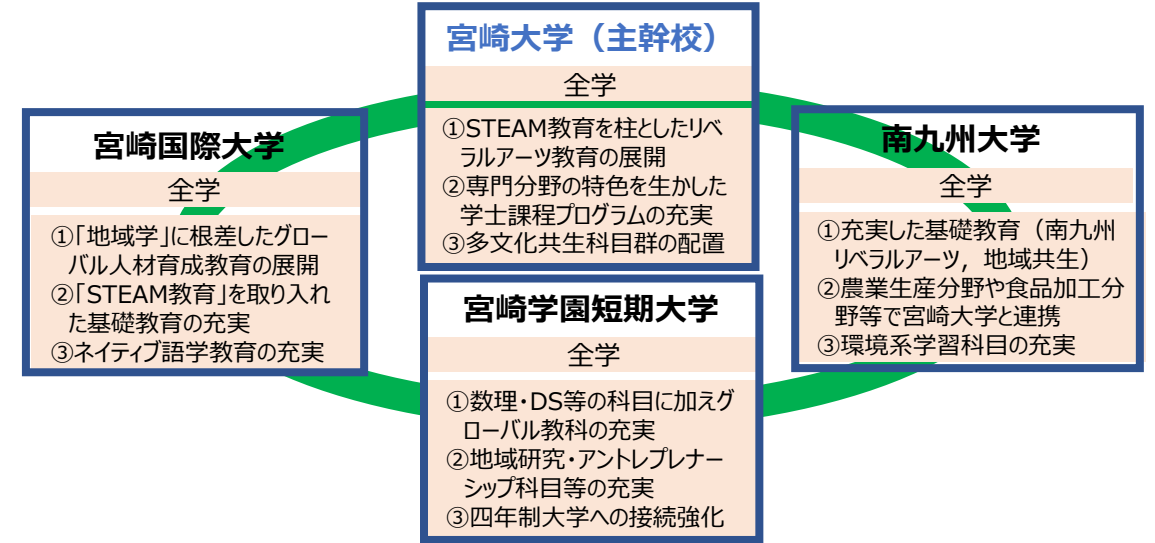
**STEP1**：在福岡米国領事館、九州地方環境事務所、JICA九州、在釜山米国領事館、在台北米国文化交流所

**STEP2**：在福岡米国領事館

**STEP3**：地方自治体、民間企業NPO等

## ○実施体制

連携する各大学が持つ特徴を生かして本交流プログラムを実施



### 本プログラムの運営体制

